

令和3年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・最終)

昭和中学校区 校番 25 学校名 呉市立昭和南小学校

a 学校教育目標	自ら伸びる みんなで伸びる	b 経営理念 ミッション・ビジョ ン	〈ミッション〉(学校の使命)一人一人の子どもがががやき、この学校で学んでよかったと思える学校をつくる。 〈ビジョン〉笑顔と挑戦がいつばいの学校
c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	<p>本校の課題は学力の向上を図ることである。3年間の学力フォローアップ事業を受け、これまで低学年の低学力傾向の児童に焦点をあてた授業改善及び学力補充の取組を積み重ねてきた。また、全学年で実施した標準学力調査をもとに算数・国語40%未満の児童を取り上げ、スキル学習や放課後にじ色教室を実施し、個別指導を充実させることで学力の底上げを図り、成果もでてきている。</p> <p>今年度も、個に応じたきめ細かな指導を通して、どの子どもも「ほっとかない」全員参加の授業づくりを創造し、ペアやグループでの学び合いを通して、児童同士が相談したり、確認したりする考える授業づくりを推進させたい。また、ICT機器を活用し、児童が主体的に学習に取り組めるよう、指導法を工夫していきたい。そのための、職員研修も計画的に進めていく。さらに、コロナ禍での行事の実施の仕方を工夫し、自分のよさを友達とのかかわりの中で実感できる、あたたかな集団づくりを意図的・計画的につくることで自己有用感を味わわせていきたい。</p> <p>家庭環境が様々である本校児童の実態から、基本的な生活習慣を身に付け、体力の維持・向上の指導を徹底させたい。また、教師が児童と向き合える時間をつくるためにも、働き方を見直し、業務改善を学校全体で進めていきたい。</p>		

育成すべき資質・能力	○知識・技能 ○思考力・判断力・表現力 ○主体性・協働する力
------------	--------------------------------

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・2・3 年目)					自己評価						
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策(こんなことをして達成します)	g 指標(効果を見とる目安)	h 目標値	上半期			下半期		
						達成値	達成度	k 評価	達成値	達成度	k 評価
***	学力の向上を図る	○基礎基本の確実な力をつける。  ○「聴いて、考えて、つなげる授業」を進める。 (考える授業づくり)	・「スキルタイム」及び「放課後にじ色教室」で基礎学力をつける。  ・学力調査等の課題を踏まえ、指導の重点化を図る。	・学期毎の学期末テストにおける正答率40%未満の児童の割合 ・算数科全単元テスト平均点80点以上  標準学力調査の正答率40%未満の児童の割合  全国の学力調査の正答率40%未満の児童の割合  ・「気づきをもって進んで学習した」……自己評価 ・「授業中、友だちの意見を聴くことができた」……自己評価 ・「相手に伝える発言をすることができた」……自己評価	算数 5%以下  算数 80%  国語 5%以下  算数 5%以下  国語 10%以下  算数 7%以下	0.5  73  21  10	104.7  91.2  90.0  98.0	A  B  B  B			
**	豊かな心 自己有用感の育成を図る	○一人一人が生きて活動し、自己有用感を実感できるあたたかい集団をめざす。 (あたたかい集団づくり)	・各学級で目標をつくり、みんなの力で達成できた経験を増やす。  ・一人一人が笑顔で活躍し、認め合い、高め合う場をつくる。	・「学校生活は楽しい」……自己評価 ・「いろいろなことに挑戦し、できることが増えた」……自己評価 ・「友達のよいところを見つけることができる。」……自己評価	90%  90%  90%	77  87  91	85.0  97.0  100.0	B  B  A			
*	健やかな体 基本的な生活習慣の確立と体力の向上を図る。	○生活のリズムを身に付ける。  ○体力の向上をめざす。  ○安全(防災)に対する意識の向上を図る。	・「早寝早起き朝ごはん」の指導の充実を図る。  ・学級による「くれチャレンジマッチスタジアム」へ参加  ・生活安全、交通安全について重点項目の徹底を図る。 ・防災教育の推進を図る。	・「早寝早起きを心がけた」 ・朝食摂取率95%以上 ……自己評価  ・「8の字とび」で各学級とも前年度の成果に10%以上増加する。  ・「交通ルールを守り、安全な登下校を心がけた」……自己評価  ・全学年、防災の視点のある学習を計画実施する。	90%  90%  80%  95%  100%	80  95  0  97  83.3	88.9  105.6  0.0  102.1  83.3	B  A  D  A  B			

業務改善	教職員の健康を守り、教職員が自らの意欲と能力を發揮できる教育環境の整備	児童生徒と向き合う時間の確保  長時間勤務の削減	会議時間の短縮  週1回の定時退校の徹底	児童生徒と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合  時間外勤務が45時間を超えない教職員の割合	80%  85%	78  42	97.5  49.4	B  D			
------	-------------------------------------	--------------------------------	----------------------------	---	----------------	--------------	------------------	------------	--	--	--